

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会の実施について(報告)

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会規程第3条第1項の規定に基づき、令和3年度第2回和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1. 開催日時 令和4年1月31日(月) 16時30分～18時
2. 場 所 和歌山県立医科大学附属病院中央棟4階 大会議室(オンライン開催)
3. 出席委員 委員長 山口 悦子(大阪市立大学)
副委員長 中川 利彦(パークアベニュー法律事務所)
委員 石井 浩子(NPO法人いきいき和歌山がんサポート)
4. 院内出席者 医療安全管理責任者・副院長 加藤 正哉
医療安全推進部長 水本 一弘
医薬品安全管理責任者・薬剤部長 松原 和夫
医療機器安全管理責任者・臨床工学センター長 原 勲
臨床工学センター工学技士長 中村 一貴
事務局次長(病院担当) 崎山 秀樹

副院長・患者支援センター長 川股 知之
患者支援センター主幹 木村 和美
医事課長 井関 謙志
5. 議事次第 PFM(Patient Flow Management)の取組について

6. 監査結果

PFM(Patient Flow Management)の取組について

- ・ PFMが順調にいけば、医師の働き方改革にも通じるということが分かった。
- ・ 周術期外来の位置は2階が理想的だが、将来的に検討されるということで、今回はコンシェルジュの導入の工夫が見られた。
- ・ 手術が決まった患者は不安でいっぱいであるため、事務的に取り扱わないで、患者・家族の身体的・精神的な負担にならないように、尊厳を守って柔軟な対応をお願いしたい。
- ・ 短期間で連携を取って、大きな制度改革、システムを作り上げられたことに対しては敬意を表したい。
- ・ 事前に一日来ないといけないという負担はあるが、その代わりにちゃんと事前に必要な情報を収集して、リスクを大幅に低減していくということで、患者・家族にもそのことをきちんと説明すれば十分に納得することだと思ふし、非常に意味の大き

いシステムだと思う。実際に運用が始まる中で、患者にとってのその意味をますます充実させていっていただきたい。

- PFM をフローで考えて設計し、他部署や多職種の分業を工夫して業務負担の軽減に繋がっていることに感心した。またコンシェルジュという役割を置いていることも特徴的である。
 - 薬剤のチェックを1か月以上前にやっており、合理的で安全に配慮され、非常に工夫が凝らされている PFM だと思う。
 - これでもまだ完成形ではないということなので、いつ完成するかを宣言していただき、その目標の年に実際に見に行く監査をさせていただきたい。
- あと2年いただきたいと思う。ぜひ患者役をしていただき、実際に回っていただけたらと思う。生の声をいただけたらと思うので、ぜひとも監査していただきたい。

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会
委員長 山口悦子